

**本校が目指す5年後の姿（具体的な目標）**

① 学校の現状や課題

旧制秋田県立湯沢中学校として昭和18年に創立し、「師弟共励」の建学のこころを現在に至るまで忠実に実現してきており、生徒と教師が協力し高め合い、文武両道にわたって躍進している学校です。平成18年度入試より、入学段階では普通科と理数科を区別せず、普通・理数科として一括でくくり募集をしています。2年次から普通科と理数科、さらに普通科は文型・理型のコースを選択して、各自の夢の実現のため、コース毎に分かれて学習しています。

少子化の波はここ湯沢雄勝地区にも押し寄せており、県南、特にこの地区の発展に欠かすことのできないセンタースクールとしての役割を担っている本校が、今後この地域を中心とした住民との協力のもと、生徒の夢の実現のために、一層グローバルに発展し続けることが課題です。

② 学校を取り巻く将来の状況の予測

少子化の影響により、4年後の平成28年、湯沢雄勝地区の高校生は現在に比べて400人弱も減少します。生徒数が減少することによって、学校の統廃合や学級減が予想されます。学級減となれば教員数も減ることになり、教員数が減れば多様な教育課程の編成は困難となります。また、部活動にも大幅に制限が加えられることになり、場合によっては、単独でチーム編成ができないということにもなりかねません。しかしながら、こうした状況の中にあっても、本校としての特色ある教育活動を展開していかなければなりません。

③ 目指す方向性や学校像

学校を取り巻く状況がどのように変化しても、国公立大学への進学希望をもつ生徒やこの地域の保護者の期待を担う本校の使命は変わらないと思われれます。将来、地域の政治・経済や医療・福祉、教育・文化のリーダーとなる人材を育てていかなければならず、また、地域の要請として、少なくとも毎年、医学部医学科へは何名か進学させたいと考えています。そのためには、授業の精度を高めるよう日々授業改善に努めるとともに、学力をつけさせるための土曜日の活用と、人間教育に有効な部活動の強化にも力を入れていきたいと考えています。

④ 5年間で達成を目指す具体的な目標

本校では、一人一人の進路志望達成を最大の目標としています。そのような中でも、国公立大学への進学を希望する生徒が圧倒的に多い現状から、東北大学を含めた難関大学進学者二桁、理数科からは毎年、国公立大学医学部医学科への進学者を輩出することを具体的な目標にします。一人一人の生徒が、高校入学後の努力で、「全県一生徒が伸びる学校、生徒を伸ばす学校」をキャッチフレーズに、より一層充実した進学指導を推進してまいります。

## 具体的な取り組み等

### 1 社会性の育成と郷土愛の醸成

- (1) いくら難関大へ合格しようとも、医学系へ進学しようとも、社会のために貢献したいと思う生徒自身の意欲が低いのでは、進学指導の意味は半減します。自己中心的なエリートを育てても意味がありません。生徒の社会性に磨きをかけ、郷土に対する愛着をはぐぐみ、たとえ国外にいても郷土のことを心にかけて何らかの貢献をしたいと思う人材を育てていく必要があります。
- (2) 湯沢雄勝地域の行事への参加やボランティア活動等は、地域との連携を深めることになると同時に、生徒自身が地域を知ることにもなり、郷土愛の醸成につながるものと考えます。したがって、地域の行事やイベントなどには積極的に生徒を参加させたいと考えています。
- (3) 生徒が早い段階で進路目標を確定させることができるような機会をつくるのが大切です。例えば、本校の卒業生の中には、各界で活躍している著名人が多く、「先輩に学ぶ」と題して、こうしたOBに講演をしてもらい、進路目標の一助にしたいと考えています。現在「アドバンスト講義」を実施していますが、先輩から直接話を聞くことによって、進路をより自分のものとして捉え、また、郷土愛をはぐくむことにもつながるものと考えています。

### 2 県や市町村、諸団体との連携強化

- (1) 優秀な大学卒の生徒が地元に戻る場合、仕事はきわめて限られています。比較的規模の大きな企業は少なく、医療・福祉関係か公務員関係(教師、市役所・町村役場、警察、消防等)かと思えます。県や市町村、当該団体ともっと連携を強化して若い優秀な人材が地元で就職できる受け皿を確保する必要があります。
- (2) 今年度、本校は県教育委員会より「キャリア教育実践モデル校」の指定を受けました。これを機会に、進路志望別インターンシップを実施したいと考えています。とりあえず今年度は、医療系志望者を対象にインターンシップを実施します。

### 3 中高一貫の部活動指導、全国優勝できるチームの育成 少子化に伴い、部活動はある程度焦点化する必要があるかと思えます。当地域で盛んな競技に関しては、中学校から継続的な指導を行い、全国優勝を目指します。また、市内の中学校の合唱や吹奏楽の裾野は広くレベルも高いので、それらの全国大会金賞も目指したいところです。

### 4 国公立大学合格と医師の養成

- (1) 今後とも地道な進学指導を継続し、生徒の内面から学習意欲を高める工夫をし、「全県一生徒が伸びる学校、生徒を伸ばす学校」をキャッチフレーズにします。
- (2) 理数科を、チームティーチング等により教員集団で計画的かつ継続的に指導し、毎年必ず医学部医学科に進学する生徒を育てます。